



## ランドルフ・コールデコット (Randolph Caldecott) 1846年3月22日－1886年2月12日

優れた絵本の画家へ贈られる「コールデコット賞」の名祖 ランドルフ・コールデコット は19世紀イギリスのイラストレータ・美術家です。

コールデコットは1846年（弘化3年）3月22日イングランド西部チェスターで生まれ、6歳ごろから絵画や粘土、木彫などを創作。15歳で近郊の町ウィットチャーチの銀行に勤めながら雑誌などに挿絵を寄稿し、1872年（明治5年）26歳の時ロンドンに出て、本格的な挿絵画家として活動をはじめます。

1877年（明治10年）、出版企画家で木版印刷業者のエドモンド・エヴァンスと出会ったコールデコットは、トイブック絵本の制作をはじめ、翌1878年からの8年間で16冊の『ランドルフ・コールデコットの絵本』を刊行しました。“1シリングのトイブック”として刊行されたこのシリーズは、多いものでは約3万部が印刷されたそうです。 ※1ポンド=20シリング

『かいじゅうたちのいるところ』で知られるアメリカの児童文学作家 モーリス・センダック は、コールデコットの作風を“快活で真実味のある生活感覚”と評しています。

今にも跳ねそうな生き活きとした人物と写実的な背景は、作家の文章を特徴的にとらえ、相互に物語の世界観を広げるように描写されており、滑稽で笑いや温かみのある絵は他のヨーロッパの国々やアメリカで生み出されたイラストレーションとは違った独特の個性を持っていました。

それ以前にもすでに、通俗的で陽気であったり美的でお洒落であったりする絵本は存在していましたが、このコールデコットの作品を含め、19世紀初頭に確立した絵本の様式は、現代絵本の源流の一つとされています。

コールデコットは生来からだ弱く病気がちで、1886年2月12日、39歳で転地療養中だったアメリカのフロリダ州オースティンで亡くなりました。

没後50年の1938年（昭和13年）、アメリカ図書館協会所属の児童図書館協会（ALSC）が、挿絵画家を対象とした「コールデコット賞」を設立しました。

アメリカ合衆国内でその年に出版された優れた子ども向け絵本の中でも、絵の完成度は当然のことながら、絵が文章と一体となって子どもの心に訴えかける絵本となっているかが評価されるもので、本年は『エイモスさんがかぜをひくと』（エリン・E・ステッド絵/フィリップ・C・ステッド文）などが受賞しています。

出典：『コールデコットの絵本 [17 解説書]』福音館書店 2001.5（E/C/17）

